

〈東音〉 ニュース

●アメリカシカゴピアノフェスティバルに於いて、日本のピアノ曲を演奏し好評を博す。



アメリカ200年祭を記念して、昨夏8月14日より8月27日まで、メンバー35名がアメリカ音楽旅行に参加した訪問地は、ニューヨーク、ワシントン、ウィリアムズバーグ、シカゴ、サンディエゴ、メキシコのテアアナ、ロスアンゼルス、好天候に恵まれ又姉妹提携を持つ The Music Teachers National Association のワシントン州会長ヨルダノヴィック女史、ニューヨーク州ピアノコンクール審査委員長の中村菊子女史、ニールチェスカンパニー社長など、多くのアメリカの友人達の大歓迎を受け感激の連続であった。

その中でもこの旅行最大の目的であった、8月18日、19、20、21日の4日間開催された、シカゴフェスティバルでの研修会は、実にユニークで大変有益な日々であった。第2日目の夜催された、過去1ヶ年に出た新しい楽曲の紹介を兼ねたピアノ演奏会のフィナーレを、わが国からのヤングピアニスト達によるピアノ演奏で飾った。プログラムは

石山優子(小1) 中村佐和子作曲「草原を渡る風」
川上典子、宮崎美子、ピアノ連弾 中村佐和子作曲
「デュオ コダマ」
菊地明子、自作自演「変奏曲」
黒川美和子、満上日出夫作曲「子守歌」

リスト「ハンガリアンラプソディR106,14」

最後の黒川美和子さんの演奏が終るや否や、聴衆が総立ちとなり嵐のような拍手で、何回も舞台に呼び出されるほどであった。

当協会メンバーによるアメリカ音楽旅行は、1972年について2回目であるが、第1回目も、日本人作品による演奏会を3回開催し、非常に好評を博し、それが縁でその折参加した中村佐和子さんの楽譜がアメリカより出版されるなど、わが国の作品紹介に力を注いできた。

今回も演奏した楽曲の楽譜の入手申し出を、相当数受け、アメリカとわが国の音楽親善に寄与した功績は大なるものがある。

ワシントンのヨルダ・ノヴィック女史スタジオにおける交換演奏会のあとは、ノヴィック女史の4人のお弟子さん達が、ピアノ協奏曲を弾いて下さった。同年配の日本の子供に比較しその内容深く音楽性高い演奏に驚異を感じた。下記写真はその折のもの。



●ハンガリーのピアニストシャンドール・ファルバイ公開レッスン開催される。

昨年9月12日(日)電波ニュース社の招きにより初来日した、ハンガリーの四天王の一人といわれる、シャンドール・ファルバイ氏によるピアノ公開レッスンが、栗嶋さんとろべで開催された。

最初にレッスンを受けたのは高崎由美さん、バッハのトッカータ2番、そのあと内田清子さん、辻映子さん木原喜美江さん、細野節子さんによって、バッハのフランス組曲3番、6番、全曲がレッスンされた。

トッカータ2番の演奏は、学生の演奏としては最高レベルのできばえであろうと絶讃された。がなお、自分はどう演奏した方がよいと思うが、と前置きされ、実に懇切丁寧なレッスンをされた。

氏はリスト音楽院で教鞭をとられるかたわら、国際的に演奏活動を行っていらっしゃる。そのレッスンぶりから、実に温厚な人格と見受け、教授としても一級の方と見えた。次号にレッスン模様を紹介予定。



参加者一同と食事を共にした折のスナップ、右隣は通訳の浅川春男氏。